

平成27年度 第6回墨田区区民行政評価委員会 会議概要

会議の名称：平成27年度第6回墨田区区民行政評価委員会

開催日時：平成27年9月1日（火） 午後1時30分～5時00分

開催場所：墨田区役所3階 31会議室

1 開 会

鏡会長の挨拶で開会し、事務局から審議方法やタイムスケジュール、鏡会長から萩原委員の欠席、審議にあたっての注意事項について説明があった。

2 報告書案の内容点検及び確認

(1) 区の代替・補完的補助金

【事業 私立幼稚園心身障害児教育事業費補助金事業】

委員会評価（案）についての意見等

(牟田口委員)：「これまでの補助実績も考慮していくべき」という文言に違和感を感じる。これまでの補助実績が明確に確認できなかった。定量的・定性的なデータがなく、心理相談員を導入することでどのような問題が解決するのか、どのような方向に向かうのかわからなかった。

(鏡会長)：「補助実績による効果が検証されるべきである」ということだと思う。

(河上副会長)：この補助金の対象は補助員の人件費なので、保育士に支払われるということだと思う。「心理相談員を導入したことによる…」という文章は違うと思う。また、議論のなかで多くの時間を割いたのは、心理士の判定基準が明確でないことなどだったと思う。発達障害児の現状をしっかりと把握してほしいと思う。それを踏まえ、(議論になった)何人の補助員が適正かなどを判断してほしい。

(事務局：関口企画経営室長)：以前の議論では、「一律補助していることが問題ではないか」という議論があった。実際に、必要なところに必要な補助をすべきだという議論があったと思う。

(高橋委員)：現段階では、1園に対して1人の補助実績しかないので、必要性はあるが、区内の現状を捉えて行っていくべきという意見にすべきだ。

(事務局：大竹企画・行政改革担当課長)：今のままの私立幼稚園や区立幼稚園の発達障害への対応だけでなく、未就学児童の実態を把握しなくては成果が上がる

らないということだと思う。

(河上副会長)：個人評価の内訳をみても、効率性の評価が悪い。効率性の課題を先に指摘すべきだ。

(事務局：大竹企画・行政改革担当課長)：みなさんの評価からみても、必要性はあると思うが、実績が少ないうえ、私立幼稚園などに通っている子だけの話になってしまっている。この補助金の本当の目的は発達障害がある子どもに対して、園に通ってなくても、未就学の子どもに補助することなのではないかという意見だと思う。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 私立幼稚園（類似施設を含む）入園料補助事業】

委員会評価（案）についての意見等

(牟田口委員)：この事業は認めていく方向で良いのか。「私立幼稚園を主体として事業を行う」ことを肯定する文章で良いのか、の判断が必要と思える。

(事務局：関口企画経営室長)：前回討議の際に、公立幼稚園は私立幼稚園の補完であるという話があった。公立幼稚園は4歳児・5歳児の2年保育しか行っておらず、3歳児の入園は私立幼稚園を中心に行っている。現在は公立幼稚園のニーズもあるので続けているが、将来的にはニーズがなくなれば、撤退領域にはいる。

(鏡会長)：公共政策の基本的な考え方として、公がどうしてもやらなくてはならない部分だけは公が行うが、私的なところで補完できるのであればそちらに任せるとするのが中心となっている。

(河上副会長)：この回の議論で印象的だった意見が「私立に入園するような状況に対して補助金を投入するのか」ということだ。墨田区では3歳児は私立幼稚園しか選べなく、区外の私立幼稚園に通わせる人もいるという状況があるという話だった。それを踏まえて、区の状況をもう少し書き入れてもいいのではないか。

(事務局：関口企画経営室長)：3歳児の入園は、保育園では待機児童が多く、区立幼稚園は4歳児からで、私立幼稚園しか選択肢がないという意見だったと思う。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 学校保健関係団体補助金事業】

委員会評価（案）についての意見等

（大嶋委員）：文章にある「補助基準」とは何のことか。補助金の算定基準のことか。

（河上副会長）：適格性は「×」が多いので、その内容が文章に反映されているが、効率性についても「×」が4つと多いので、それについても一文触れておく必要があるのではないか。具体的にいうと、「効果がわからない」という議論があったと思うので、そのような内容になるのではないか。

（牟田口委員）：目的がわからないので、効果もわからない。

（牟田口委員）：需給関係の実態はどうなっているのか。昔は医者が必要なくて、区が頼んでも「やらないよ」言われてしまうケースもあったかもしれないが、今は基準を明確して「やってくれ」と依頼すれば、すんなりしてくれるものなのか、需給の関係や専門が分科してきているのも理由だろうか、実際与えられた情報からはよくわからないと思えた。

（事務局：関口企画経営室長）：個別の学校医に対して補助しているものではなく、学校保健会という団体に対し補助しているものだ。保健会の勉強会や講演会などの活動の経費を補助している。補助がなくなったらどうなるかという話だが、昔は補助していなかったとはいえ、モチベーションの低下と区への不満が増加すると考えられる。研修会や勉強会への参加が減るなどの弊害は起こると思う。

（河上副会長）：以前はなかったが、医師会からの要望もあり、このような補助を始めて、またなくすという方向性にはないという話だったが、やはり変わらないのか。

（事務局：関口企画経営室長）：必要性があるということで求められて補助金を出してきたので、いきなりなくすというのは難しい。ただ、議論されたように、補助ではなく委託として支出するという見直し方法あると思う。ただ、大きな見直しになるので、時間はかかると思う。

（河上副会長）：医師会は講演会をしたり、交流会をしたりしている。薬剤師会は実際の計測に補助を充てている。後者は委託で馴染むと思うが、前者に対して補助金として出し続ける必要があるということか。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

（2）運営費（団体）補助金

【事業 区民体育祭補助金事業】

委員会評価（案）についての意見等

（事務局）：所管課から補足したいということで次のとおり話があった。各委員から「スポーツに対する考え方が変わってきている」「生涯スポーツの観点も必要」との意見があったが、別の事業で補完している。この事業では、競技スポーツを補助しており、別では生涯スポーツの施策なども行っていることを理解して議論していただきたい。

（事務局：関口企画経営室長）：この評価のように、個人評価でB評価2人、C評価が2人、D評価が3人といった、B評価からD評価がある中で、委員会評価をD評価としたことについて、委員会として説明責任があると思う。「一定の評価をしつつも、このような改善点がある」など、D評価になった理由を書き添えてほしい。

（事務局：大竹企画・行政改革担当課長）：必要性や公益性は「 」が5人いる。一定の評価があるということだと思う。

（高橋委員）：機会は必要だが、多種多様なニーズや環境に合わせて、実施の仕方を見直してほしいということの議論だったと思う。

（清水委員）：生涯スポーツ関係に補助金を移行するなど工夫あればよかったが、新たな方向性や取り組みが確認できないからDになったのではなかったか。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 コミュニティ推進活動助成事業】

委員会評価（案）についての意見等

（牟田口委員）：町会加入率について、どの程度が妥当なのか質問したが、答えがなかった。どこを目標にして補助を行っているのかが見えなかった。

（高橋委員）：「補助金の使途を制限していないため」とあるが、「使途があいまいだった」というニュアンスではないか。誰か発言したか。

（牟田口委員）：どこかの自治会で会館建設のため3000万円ほど留保しているとのことだったが、そのようなお金をこの補助金から積んでいいのか。そのような意味で、「使途を制限していないため」と発言したと思う。使途を明確にして、余ったものは返してもらおうというのが、補助金の考え方だと思う。

（鏡会長）：高橋委員の意見で記述されている「一定程度区が関与する必要がある」という言葉を採用してまとめるのがよいのではないか。

（河上副会長）：実績値が町会の加入率のみとなっている。「自由度が高い補助金を今後も続ける」ということだったが、本来の目的である「コミュニティづく

りの推進」の評価指標としては、加入率しかなかったことは不十分なので、指摘しておきたい。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 「すみだ リサイクルの会」補助金事業】

委員会評価（案）についての意見等

（鏡会長）：これは文案そのままではいいのではないか。

（事務局：関口企画経営室長）：これはE評価なので、報告書の提出により即廃止と一般的には受け止められる。委員会の議論の中で会長からの意見であったように、「いろいろな団体が背景を抱えているので、丁寧な対応により見直してほしい」というような意見も加えてほしい。

（大嶋委員）：関口企画経営室長の意見を加える件は、問題ないと思う。

（清水委員）：リサイクル事業に支障を来たさないというニュアンスを入れるべきだと思う。リサイクル事業の維持確保を行っていくという表現になるか。

（牟田口委員）：リサイクルはもう古いと思う。最近は3R（リユース・リデュース・リサイクル）だ。そのような概念の移行が必要だと思う。

（事務局：大竹企画・行政改革担当課長）：墨田区も3R活動を行っている。この事業は、3Rの概念がない頃から始まった事業なので、リサイクルという言葉を使っているが、実際はリユースもおこなっている。新たな概念の3Rではないが、実質的にはそのようなことを行っていることを補足したい。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

（3）管理運営補助金

【事業 公益社団法人墨田区勤労者福祉サービスセンター補助金事業】

委員会評価（案）についての意見等

（河上副会長）：文章案だとE評価に近いという印象を受ける。継続の必要性がある根拠について記述すべきではないか。

（鏡会長）「現状においては」という言葉を使い、また萩原委員の意見にある「中小企業労働者への複利厚生は必要だが…」という文章を採用してはどうか。

（河上副会長）：民間企業でも、福利厚生施設を一社で維持するという事は少な

くなっている。大企業でも共同で福利厚生施設を使う動きもある。すべて自前で所有している印象を受けた。そのあたりに工夫の余地があるのではないかという議論をしたと思う。

(牟田口委員)：ニーズが多様化して、選ばせる必要があるという答えだったと思う。

(事務局)：「近隣自治体との共同」の記述については、他区の事例として2区共同で運営しているという話があったからだと思う。

(牟田口委員)：負担者は事業者であり、勤労者ではない。そういう面では、勤労者の意見が反映されているかわからない。

(鏡会長)：萩原委員の意見にあるように、「メニューの充実度が高く…」など中身についても記述する必要がある。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 すみだ福祉保健センター管理運営補助金事業】

委員会評価(案)についての意見等

(牟田口委員)：補助対象というのは、対象先なのか、項目なのか。

(事務局：大竹企画・行政改革担当課長)：対象先になると思う。これは管理運営補助なので、補助しているのは管理運営団体しかない。

(牟田口委員)：事業団や組織を作っても、人材が不足している。人材育成についても記述すべきではないか。

(事務局：関口企画経営室長)：Cが4人でDが3人で総合評価がDとなっている。冒頭で必要性(はあるということ)について触れたほうがいいのではないか。

(鏡会長)：社会福祉事業団について、言及したい。

(牟田口委員)：もう少し緊迫感ができるように、「緊急に見直し」などの文言を入れるべきではないか。

(鏡会長)：対象の組織が大きいので、丁寧な見直しが必要になると思う。

(事務局：大竹企画・行政改革担当課長)：今回は補助金の評価であり、組織のあり方にまで言及されるのはどうか。

(牟田口委員)：区民としては、事業団が引き受けてくれるのは良いが本当に大丈夫

夫なのか疑問が残る。行政が行うサービスには予算的にも限界がある。

(河上副会長)：指定管理者の公募か、非公募かという議論もあったので、その点も記述できないか。

(牟田口委員)：議論の際、データを示していただけなかった。したがって、説得力がなかった。

(河上副会長)：確かに。そういう意味で、効率性の評価が低くなっているというのではないか。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 すみだ学習ガーデン補助金事業】

委員会評価(案)についての意見等

(大嶋委員)：「補助の効果が一部の地域に偏っている」ことを認めたのか。どうだったか。

(事務局：関口企画経営室長)：どの地域からの利用者が多いか。という議論になり、近隣が多いという話になった。

(牟田口委員)：この問題点は、NPOと行政が一体になっているということだ。競争が必要になると思う。

(鏡会長)：墨田区にはなぜ公民館はないのか。

(事務局：関口企画経営室長)：明確な根拠をもって作らなかったわけではない。公民館的な役割としての地域集会場や複合施設はある。

(鏡会長)：社会教育法に基づくものではないか。

(事務局：関口企画経営室長)：そうではない。おそらくだが、教育施設という位置付けに縛られたくなかったのだと思う。

(鏡会長)：では、学習機会の提供は、学習ガーデンが一手に引き受けているということか。

(事務局：関口企画経営室長)：区の施策としてはそのような形になっている。生涯学習センターを作ろうという構想がでてきたときに、市民団体を集め、自主グループから始まり、区の施策を任せようと、自分たちで企画を作り、事業展開していくということから、NPOになっていったという経緯がある。

(牟田口委員) NPOが行政と一体になっているので、外部評価ができていないと思う。外部評価を入れて、イノベーションをしていくようなことが必要だ。学習するだけでなく、地域の力になるような行動を起こせる人材が生まれてくればいいと思う。極端なことを言えば、お金を生み出せる、つまり社会的な課題を解決するための雇用に結びつくようなプロ人材を生み出せる組織になればいいと思う。また、NPOの高齢化により行動力がなくなり、若い人を取り込めなくなってくる。

(事務局：関口企画経営室長)：100%補助で行われている団体なので、自浄作用が働いていないという話だったと思う。今後は市場化テストではないが、競争をしていく中で効率化を図っていくという話だったと思う。

(牟田口委員)：随意契約となるのか。

(事務局：関口企画経営室長)：生涯学習センターの事業運営も含め指定管理として競争の中に入っていくということは、将来的な可能性としてはあると思う。ただ、そのような形にするのは区として大きな決断が必要となる。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

(4) イベント補助金

【事業 すみだまつり・こどもまつり補助金事業】

委員会評価(案)についての意見等

(河上副会長)：運営方法の話が出たと思うので、「運営方法の見直し」について記述したほうが良いと思う。

(牟田口委員)：まつりの意義が不明だった。再度見直しをして目的を明確にすべきだと思う。運営方法はもとより、考え方が大切で、もう一度、すみだまつりとは何かの根本から見直すべきだと思う。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 『イチから始める』運動(イチ実施委員会補助金)】

委員会評価(案)についての意見等

(鏡会長)：この補助金による事業がひとつの業界だけにとどまっているということを書いたほうが良い。

(事務局：大竹企画・行政改革担当課長)：他の業界の参加も促すべきではないか。ということを入れたほうが良いのではないか。

(大嶋委員): 基準が厳しすぎると思う。その点を改善して、イチとしては継続すべきだと思う。

(牟田口委員): 専門見本市にするのか、総合見本市にするのか、質問したが、その回答も不明確だった。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

【事業 フォーラム・イン・すみだ開催経費に係る補助金】

委員会評価(案)についての意見等

(鏡会長): 根本的な見直しという言葉が入れるべきだ。本来であれば、この事業だけの見直しだけでなく、中小企業施策全体の見直しが必要だと思う。

(事務局:大竹企画・行政改革担当課長): 大田区など製造業が盛んな区は他にもあるが、事業者の規模が大きい。墨田区は事業者の規模が小さいので、何か施策を行わないと埋没してしまう。墨田区には以前から事業所のカルテ(企業台帳)があり、それに基づいて施策を行っているのと同時に、ひとつの事業者だけでなく、集まって何かできるのではないかという経緯で始まっている。だが、過渡期に来ていることは間違いない。

(牟田口委員): 知り合いの中小企業で、海外に進出している積極的なところもあるが、そのような外向きの企業は参加していないようだ。

(事務局:大竹企画・行政改革担当課長): 自分でなんとかできる事業者はいいが、ここに集まるのはそれができない事業者が多い。昨年、見直しをしたということだが、さらなる見直しが必要となるということだろうか。

審議終了 会長を主として委員会総合評価理由のまとめが行われた。

3 その他(事務連絡等)

事務局から、以下のとおり連絡事項があった。

- (1) 様式・体裁を含めた報告書の軽微な内容修正や、報告書前段部分の掲載内容などについては、会長と事務局とで調整を行うことについて、各委員が了承した。
- (2) 第7回区民行政評価委員会開催日時などについて説明があった。

4 閉会